愛鷹山のキリシマミドリシジミについて

吉 田 良 和[1)]

On *Chrysozephyrus ataxus kirishimaensis* OKAJIMA from Atakayama, Shizuoka Prefecture

By YOSHIKAZU YOSHIDA

筆者らは1964年8月，愛鷹山においてキリシマミドリシジミの短尾型を含む14♂を採集したので報告する。

愛鷹山は富士火山帯に属する旧火山で，富士山の展望台として知られる富士三足のひとつであり，現在まで知られているうちで，本種の分布の最東北端である。

愛鷹山から本種を最初に報告したのは堀口真之氏で，1962年9月10日，1♀が得られている（駿河の昆虫， No. 39，p. 1083)。

その後，1964年3月，筆者はこの地を訪れ，わずかながら採卵に成功した(駿河の昆虫，No. 47，p. 1308)。この卵を飼育した結果，写真No. 1に示す1♀を得た。この成果に力を得て，1964年8月2日，京浜昆虫同好会の予東喜洋，芦沢博，大胡武，堀内武人の各氏と共に再度採集を試み，総計14♂を得た。

写真の No. 2～No. 15 がこの時に得られたものであるが，このうち約半数は，屋久島産の亜種ヤクシマミドリシジミにみられるような尾状突起の短いものであり，残りは他の産地のものと同様尾状突起の長いものであった。試みに尾状突起の長さを測ってみると，長尾型（写真No. 2～No. 8）は約3.5 mm で，短尾型は大部分が1 mm 未満（0.5 mm～0.8 mm）であり（写真No. 11～No. 15)，1個体（写真No. 10）だけ約1.5 mm で，丁度長尾型と他の短尾型の中間型のような印象を与える。尾状突起の長さについては，他の産地のものについて手持標本で測ってみると約3.5 mm のものが多く，長いもので約4 mm であり，長尾型は他産地のものとほとんど変らない。ヤクシマミドリシジミはわずかしか手持がないが，藤岡知夫氏の標本を見せて頂いた時の印象からすると，今度得られたものより，一層短かかったようであるが，数値的に測っていないし，今回の測定も0.5 mm 単位で概測した程度であるので，くわしい比較は後日行うことにする。

色彩・斑紋は，すべて御在所岳産のものと全く区別できない。♀のB型紋の状態も，この1個体で判断するかぎり，御在所岳産のものと同様である。

大きさは，全体としてやや大型であるような印象をうけるが，前翅長を測ってみると，20.0 mm～23.0 mm で，21.5 mm～22.0 mm のものが多い。

本種の短尾型が，分布の最北東端にあたる愛鷹山で得られたことは，大変興味ある事実であると考えたので報告しておく次第である。

1）千葉市幕張町 3—1781 農林省官舎

静岡県愛鷹山産のキリシマミドリシジミ